

令和 6 年度特色ある学校づくり推進事業報告書

学校番号（1 2 6） 学校名 豊田市立稲武中学校

1 テーマ

広がれ！ 稲中生の夢と挑戦

～地域に働きかけ、地域から意欲的に学ぶ生徒の育成～

2 ねらい

稲武地区の人口の減少にともなって生徒数も年々減少しており、地域・学校ともに活力の低下が懸念されている。地域からは、「地域を大切に思う子を育ててほしい。地域住民として活躍してほしい。」という願いが強い。そこで、生徒が地域の方々と連携して、地域の伝統、文化や産業などを見つめ直し、故郷への愛着を深める活動を展開したいと考えた。さらに本事業を通して、活力ある中学生の姿を地域に発信し、地域の活性化の一翼を担う学校を目指して、本テーマを設定した。

3 活動内容

(1)地域から学ぶ活動

- ①地域への愛着を深める活動（地域ボランティア活動）
- ②地域の産業や職場から学ぶ活動（職場体験学習、地域ボランティア活動）
- ③地域の人から学ぶ学習（高齢者ハンドケア活動、ランプシェード作り、スキー・スノボ教室）

(2)地域へ発信する活動

- ①学校の教育活動について、1 週間に 3 日以上ホームページに掲載し、保護者・地域の方に理解を深めてもらう。
- ②特別な活動について、市政課に報道資料として提供する
また、地域の皆さんの反応・感想などを中学生に伝えることで、交流を図る。

4 成果と課題

①地域から学ぶ活動

- ・中山間部ではあるが、多種多様な事業所のある稲武地区。2 年生はそこからそれぞれ 1 事業所ずつ選択して 3 日間の職場体験を行う。事前学習として、視能訓練士の方を講師として招聘し、協働して仕事をする上でどのような言動に気を付けるとよいかを学んだ。また、夢をかなえるために努力を惜しまないことを講師の体験をふまえて話していただいた。職場体験当日は、事業所の仕事を行うだけでなく、事前に用意した質問に沿って聞き取り調査を行い、後日、立志式で発表する職場体験のまとめに生かした。事業所の方も地元中学生の体験ということもあり、あまり経験できないような仕事も体験させていただいた。多くの経験から、その仕事の魅力を実感することができた。
- ・観光地である稲武地区、町内外からたくさんの方が来る地域イベントが数多くある。休日や夏休み期間中を活用して、多くの生徒が地域イベントのボランティア活動に参加した。ボランティア活動を進んで行うことは、稲武中学校生徒の中で浸透しており、ほぼ全員の生徒が参加する。観光地としての良いところを発見したり、町の良さを紹介する担当者への気持ちにふれたりすることで、地域への思いを育むことができた。さらに、見知らぬ人とコミュニケーションをとることで、

自己開示の意識を高めるとともに、人とのかわりあいを学ぶことができた。

- ・稲武地区は、多くの高齢者が生活の場としている。お年寄りに元気になってもらいたいという生徒の願いから、2年前からハンドケアの実践を行っている。今年度は、全校生徒で実践することにした。日本赤十字の方に、お年寄りとの接し方やハンドマッサージの方法を教えていただく機会を確保するとともに、昨年度実践した3年生を中心に、学んだことを確認・練習をして実践に臨んだ。11月に3回、福祉センターや老人ホームに出向き、そこに見えるお年寄りとのコミュニケーションをとりながらハンドケアを行う予定であったが、感染症の流行の影響で3回目が2月の実施となった。そのような状況においても、ハンドマッサージだけでなく、お年寄りと楽しむことができるレクリエーションを準備したりした。お年寄りが喜んでくれた表情や優しい声をかけてもらったことで、ボランティア活動に対して充実感をもつことができた。さらに、来年度も継続してお年寄りを元気にしたいという気持ちをさらにもつことができた。
- ・地域の森林資材を有効活用してランプシェードに仕上げる活動を通して、地域の文化や産業に親しむ機会となった。また、稲武地域の森林をどのように守り育てているか、講師から聞く機会ができ地域の魅力や課題を再発見することができた。さらに、出来上がった作品を交流館主催の地域行事「ふれあいまつり」(10月)で展示し、学校の取組を広く地域の人々に知っていただくことができた。
- ・地域の方をスキー・スノボ教室の講師として招いた。滑り方を教えていただいたりともに活動したりするなかで、講師の「地域の子どもを大切に育てていこう」という思いに触れ、地域で支え合うことの大切さを喚起させることができた。

② 地域へ発信する活動

- ・コミュニティスクール連絡会議の場で生徒たちが取り組んでいる内容について写真を交えて紹介することで、学校の教育目標について理解を得た。
- ・ホームページで掲載する内容を充実させ、タイムリーに掲載するようにした。保護者評価では「学級、生徒会活動、学校行事で子どもが生き生きと活動している」について肯定的にとらえている。

③ 「特色ある学校づくり推進事業」に補助員を配置したことによる成果

【校内整備員】

- ・校務主任や校務手との連携をスムーズに行い、年間を通して体育館周りの除草や樹木の整備など校内環境を整えることができた。

(2)課題

学校の特色ある活動の様子は、ホームページや生徒からの話から保護者に伝わり一定の成果は出ているが、学年だより等で各学年に応じた活動の意図や目的、様子は発信しているものの、十分に伝わっているか疑問は残る。来年度は、できるだけタイムリーな発信を心がける予定である。その中で、目的や取組について保護者や地域に理解していただけるように伝え、一層支援していただけるようにしていく。

5 保護者・地域への情報発信の取組実績

- ・ホームページを週に3回以上更新し、各活動の詳細をリアルタイムで紹介した。
- ・事業に関する授業や学校行事には可能な限り保護者・地域の方を招き、参観していただくだけでなく一緒に活動した。